

次期西京区基本計画策定基本方針

1 西京区基本計画策定の趣旨

2020年度（令和3年3月末）に10年間の計画期間を終える現行の西京区基本計画に代わり、新たな西京区を策定します。

計画期間は、区基本計画の上位に存在する市基本構想の終期が2025年（令和7年12月）であることから、基本計画において、同一の基本構想に基づかない計画期間が生じるのは適切ではないため、市基本構想と終期を合わせ、2025年までの5年間を計画期間とします。

2 西京区基本計画策定の基本的な方針

【西京区のまちづくりの指針となる計画】

西京区基本計画は、西京区のめざすべき将来の姿の実現に向け、まちづくりの方向性や具体的な取組について明らかにするものです。

【今後5年間でのまちづくりを見据えた計画】

次期基本計画は、京都市基本構想との整合を図るため、計画期間が5年間となっており、これまでの区基本計画の進捗状況を踏まえ、今後5年間でのまちづくりにおいて取り組むべき施策等について位置づける計画とします。

【区民と行政の役割が明確なわかりやすい計画】

西京区基本計画では、区民と行政の協働をより一層進めていくため、まちづくりにおける区民と行政の役割について明らかにし、誰もがわかりやすい計画とします。

3 計画の構成要素

現行計画の内容を踏襲しつつ、現行計画策定後に顕在化した課題等を、実情に応じて加えます。

< 現行計画の掲載内容 >

- ・ 西京区の概要や現状，課題
- ・ 西京区の将来の姿

西山の緑かがやき 未来をひらく西京区

- ・ 区のまちづくりの方向性と具体的な取組

【方向性】

- （1）人と人が支え合う区民が主役のまちづくり
～地域の絆を育み，安心して暮らせるまちを目指して～
- （2）環境と共生するまちづくり
～美しい自然を守り育て，未来へ引き継ぐまちを目指して～
- （3）人と歴史・文化が輝くまちづくり
～地域の魅力を生かし，多彩な交流が進むまちを目指して～
- （4）暮らしやすい都市基盤が整うまちづくり
～快適で，いつまでも住み続けたいと思うまちを目指して～

- ・ 区民の未来への願い 等

豊かな自然の次世代への継承の願い
地下鉄東西線の西京区への延伸の願い

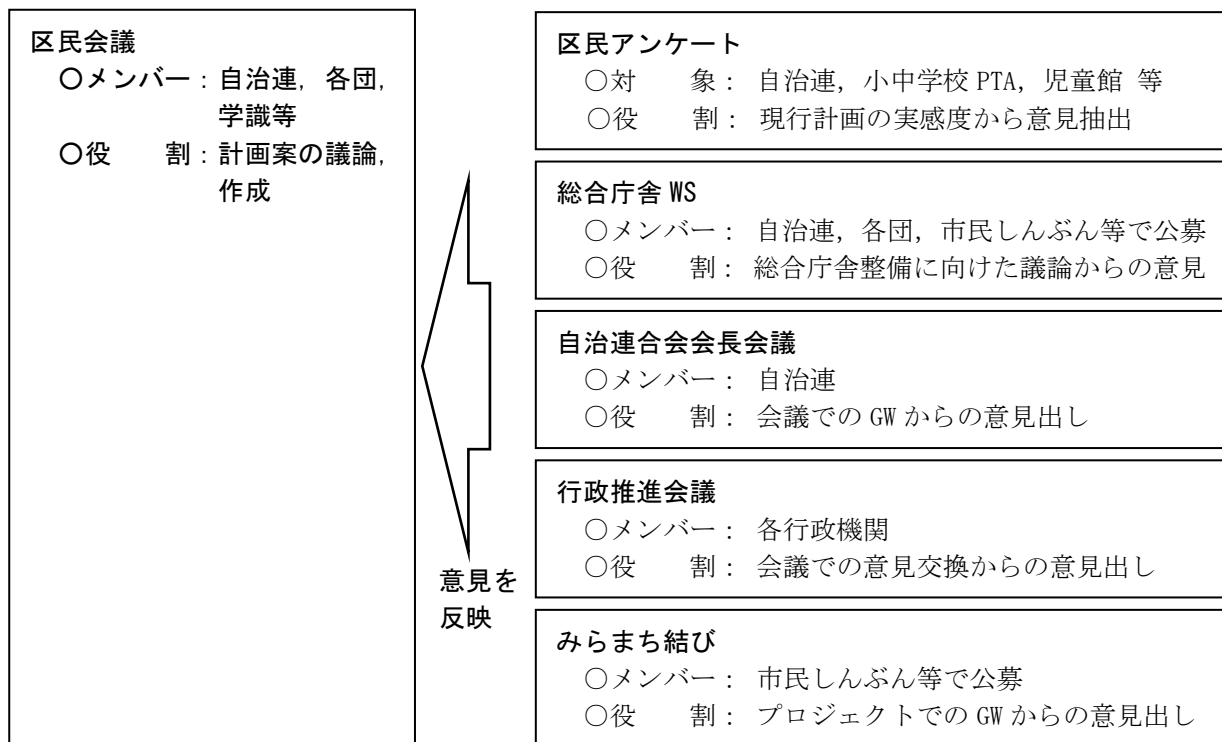
4 策定スケジュール

令和元年度には、西京まちづくり区民会議を実施し、その中の議論やグループワーク等により、次期計画の柱や骨子を検討します。その検討結果をふまえ、同年度末を目途に素案を作成します。

令和2年度には、計画素案についてパブリックコメントで広く区民の皆さまに意見をお聞きします。その意見を反映し、さらに区民会議で検討を加えたのち、第3期西京区基本計画として公表します。

時期	区民会議の役割(計画案の議論, 作成)	時期	その他会議体等での役割(計画案の評価, 追加意見出し)
8～9月	・全体スケジュール確認 ・今までのGW振り返り, 次期計画のネタだし	8～9月	・区民向けアンケート集計, 分析
		8～2月	・総合庁舎 WS (8～10月) での意見反映 ・自治連合会会長会議 (10月) で報告, 意見出し ・行政推進会議 (12月) で報告, 意見出し
1月	・計画骨子の議論, 案の決定	1～2月	・みらまち結びでグループワーク等
3月	・計画素案の議論, 案の決定		
		来年度～	・パブコメ

5 策定体制・会議体のイメージ



次期基本計画検討に当たってのキーワード(令和の京都策に向けて)

(参考) 第1回京都市基本計画
審議会(8月9日)資料

文化の多様な価値創出

・文化を基軸とした取組

文化芸術基本法の施行, 文化庁の全面的移転, 有形無形の京都文化遺産の継承, 保存と活用のお好循環の創出, 平和・共生社会の実現, 経済の活性化, 文化によるイノベーション創出, 食文化・生活文化の継承, 担い手の育成と創造環境の整備, 国内外の文化交流の促進

・新景観政策のさらなる進化

京都の景観の守るべき骨格の堅持・充実, 規制法を含む創造法への景観政策の進化, 豊かな自然景観の保全, 京町家等の都市景観の保全, 地域特性を踏まえたきめ細かな対応

脱炭素・循環型社会の構築と生物多様性の保全

・温室効果ガス実質ゼロに向けた社会の実現

パリ協定, 1.5℃を目指す京都アピール, 省エネ・再生可能エネルギー拡大, 社会課題を解決するイノベーション創出, 気候変動による自然災害の続発

・ごみを出さない循環型社会の構築

ごみが出ない生産体制・ライフスタイル・地域社会の構築, プラスチックごみ対策 (G20 大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの具体化), さらなるごみ対策

・生物多様性の保全

京都の文化を支える自然環境の保全, 人と自然との関係の再構築, 森林の再生, 在来種の絶滅危機対策

市民生活と観光の調和

・市民生活との調和

観光客の分散化, 観光マナー向上, 観光効果の市域全体への還元, 市民・観光客の安心安全, 質のさらなる向上, 民泊(違法対策→上質化)

・世界との交流

世界的な観光客の増加, 観光立国, 多文化共生, 文化の相互理解の推進, 大阪・関西万博・MICE

・観光産業の高付加価値化

観光事業者の正規雇用, 観光産業の生産性向上, 多言語対応, キャッシュレス化

社会・経済価値の創造

・知恵の承継・担い手確保

雇用・産業用地の創出, 企業誘致, 南部地域の創造, 地域企業の活性化, 事業承継, 学生に選ばれるまちづくり, 入管法改正・外国人労働者, 伝統産業・技術・工程の継承, 働き方改革, 生産性の向上, ディーセントワーク

・付加価値の高い新産業創出

地域特性や企業独自の強みを生かした知恵の活用, グローバル視点, ローカル視点, デザイン思考, クリエイティブ産業のクラスター化, スタートアップ支援, ESG投資の呼込, グローバル新市場の開拓・創造, オープンイノベーション・交流,

・Society5.0を見据えた取組

IoTによる新たな価値, イノベーションによる様々なニーズへの対応, AIによる情報の提供, ロボットや自動走行等の技術による人の可能性の広がり



子育て・教育環境日本一

・子どもを楽しく生み育てられる環境づくり

少子化対策, 共働きの増加, 女性の活躍, 貧困対策, 保育の担い手確保, 地域ぐるみの子育て支援

・学び合い・育ち合う環境づくり

社会との関わりを意識した教育, 様々な挑戦を可能とする社会構築, 大学・学生の国際化, 留学生への京都文化の浸透, リカレント教育, いつでも学び直せる環境づくり

・困難を有する子ども・若者への支援

医療的ケア児・障害児への対応, 児童虐待・いじめ・不登校対策, 長期化・高齢化するひきこもりへの対応, 切れ目ない支援, 参加しやすい地域づくり

福祉・地域力の向上

・誰一人取り残さない地域社会づくり

単身化等による地域社会の変容, 人生100年時代の到来, コミュニティの多様化(SNS, 子ども食堂等), 地域共生・社会的包摂, 複雑化する地域課題への対応, 多文化共生, ダイバーシティ, 町内会・自治会の活性化, 社会的孤立・8050問題への対応

・健康で安心安全な暮らし

犯罪・再犯防止, 世界一安心安全なまちづくり, 健康長寿・高齢者の活躍, フレイル対策, ゴールデンスポーツイヤーズを契機としたスポーツ振興

都市インフラの強化・質の向上

・危機管理・防災・減災

南海トラフ地震への備え, 災害の激甚化・スーパー台風への対応, リダンダンシーの確保, 都市基盤の長寿命化・機能向上

・社会活動を支える基盤整備

都市基盤の戦略的マネジメント, 投資を誘発する都市づくり, 広域ネットワークの形成, ユニバーサルデザイン, 空き家の有効活用

公共交通を基軸とした持続可能な都市構築

・住む場所・働く場所の確保

保全・再生・創造のまちづくり, 都市のスポンジ化への対応, コンパクト+ネットワーク, 若年層の定着, 職住・育住近接

・歩いて楽しいまちづくり

公共交通利用割合のさらなる向上, 公共交通の利便性向上・担い手確保, ライドシェア, 新技術・新概念(MaaS)の活用, 歩いて楽しい空間づくり

・地域の個性を生かした景観づくり・まちづくり

地域力のさらなる向上, まちづくりの担い手創出, エリアマネジメント, 京都市立芸術大学の移転